



2019年2月28日発行



今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶	1
第12回国際春季フォーラムのご案内	2
第37回大会のお知らせ	2
大会優秀発表賞審査結果報告	2
優秀発表賞に関する規定の改定	3
(Student) Workshopの企画募集	3
被災された方の会費免除のお知らせ	3
終身会員の登録申請について	3
理事会より	4
編集委員会より	4
大会運営委員会より	5
広報委員会より	6
学会賞委員会より	6
日本英語学会2018年度収支中間報告書	7
言語系学会連合について	8
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会について	8
事務局より	8

会長挨拶

会長 伊藤 たかね

2年前に、思いもしない大役をお引き受けすることになり、力不足を痛感しつつも、なんとか2年の会長任期を全うすることができました。各種委員会で、学会誌の発行、大会・国際春季フォーラムの運営、広報活動、顕彰制度による授賞の決定などに力を尽くしてくださっている委員の皆様はもちろんのこと、学会活動に参加してくださっているすべての会員の皆様に、改めて深く感謝したいと思います。

2年という短い期間でできたことは少ないのですが、過去のニューズレターでのご報告と少し異なる部分もありますが、任期中に目指してきたことを少しまとめておきたいと思います。

〈学会運営の簡素化〉

会員数が減少していく一方で、学会活動は多様化しており、財政面の不安を強く感じる状況の中にあって、活動の多様化・活性化が当然目指すべ

き方向であるとするれば、会員増加につながる方策を検討すると同時に、活動の質を下げない形で運営の簡素化が喫緊の課題であると考えました。即決できることは小さなことに限られましたが、大会運営は少しずつ省コスト化の方向づけができてきました。大きなところでは*Conference Handbook*やニューズレターのペーパーレス化を検討していますが、十分な準備が必要なことであり、もう少し時間がかかりそうです。簡素化によって多少のご不便をおかけすることもあるかとは思いますが、会員の皆様からお預かりした会費を、学会にとってもっとも重要な活動に十分に投入することができるようにするための方策であることを、ご理解いただきたいと思います。

〈会長選挙制度の変更と評議員会の活性化〉

評議員が、理事選挙だけでなく会長選挙の選挙権も持つように、会長選挙の制度変更を行いました。また、評議員に各種ワーキンググループのメンバーになっていただくなど、学会の意思決定に参画していただく機会を増やすように努力しました。年に1回の開催で、各種報告でほとんど時間がなくなってしまう評議員会においても、可能な限り未決定の重要事項についてご意見を伺う場を増やすようにしてまいりました。評議員が全会員の約10%となっていますので、中堅以上の主だった会員として周囲の会員の意見を代表していただけるような形を目指したいと考えてのことです。2年前の理事選挙では投票率が低く、選挙が成立するのかが揉みましたが、昨年の会長選挙では投票率は80%近くになりました。この数字に、評議員の先生方の学会へのコミットメントが現れたとすれば、大変嬉しいことです。

〈顕彰制度・助成金制度〉

若手・中堅の研究者にとって魅力のある学会であることが、会員数の減少を止め、増加に向かわせる唯一の「解」であろうと考えます。もちろん、活発な学会活動がその主な柱となりますが、加えて各種顕彰制度・助成制度を充実させること

を目指してきました。個々の制度についてはすでにご報告済みですので繰り返しません、いただいた寄付の活用にあっても、またすでに存在する顕彰制度の制度変更にあっても、このような方向性を踏まえて議論を進めてきました。これらの制度が、学会活動の活性化につながることを期待しています。

以前のニューズレターにも記しましたが、研究活動の国際化が急速に進み、成果公表の場として会員制ではない国際学術誌や国際学会に中心が移って行く中で、国内の研究者を主な会員とする学会のあり方が厳しく問われていると実感しています。しかし、日本で「英語学」の分野にたずさわる研究者が、世代や地域を超え、依拠する理論的枠組みの違いを超えて、学び合う場としての学会には、国内における分野の継承という大きな役目があると考えます。

昨年11月に会長選挙が行われ、筑波大学の廣瀬幸生氏が次期会長に選出されました。新しい会長選挙制度に従い、私はあと1年、副会長として新会長を支えさせていただくことになります。日本英語学会が、上述のような役目を十全に果たすことができるよう、多くの会員の皆様の積極的な参画を改めてお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

第12回国際春季フォーラムのご案内

第12回国際春季フォーラムは次のとおり開催されます。

日時：2019年5月11日(土)・12日(日)

場所：聖心女子大学

(〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1)

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。なお、今回のフォーラムも書籍展示を行う予定です。また、土曜日夜刻に開催される懇親会の参加費は2,000円です。

第37回大会のご案内

第37回大会は次のとおり開催される予定です。

日時：2019年11月9日(土)・10日(日)

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

(〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

会員の方は奮って研究発表にご応募ください。応募締切は**2019年4月1日(月) 24時(必着)**です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄(<http://elsj.jp/meeting-kitei/>)掲載の同規定をご確認ください。「大会優秀発表賞」はこの度改定が行われ、審査の対象が拡充されましたので、奮ってご応募ください(詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください)。なお**応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守していただきますようお願いいたします。**そのうえで、必ず同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙(Excelファイル)を締切り日厳守にてご送信ください。

第37回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ウェブサイトや8月発行予定のニューズレターでご案内いたします。

大会優秀発表賞審査結果報告

第36回大会では、大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会当日の発表に対する二次審査が行われました。審査結果は12月に開催された大会運営委員会で審議され、坂本祐太氏(中京大学)「英語の否定辞繰り上げ：so照応との相互作用の観点から」に大会優秀発表賞を授与することが決まりました。

坂本氏の発表は、英語の否定辞繰り上げの意味論的分析と統語論的分析を、新たな言語事実の提示により批判的に比較し、前者に優位性があることを主張するものです。明確な対立仮説を立て、経験的な証拠に基づいて議論を展開する手際の鮮やかさが印象的で、近年稀に見る理論言語学研究的の王道を行くレベルの高い研究と評価されました。審査委員からは、依って立つ意味論的分析の内実にもう一步踏み込むとさらに深みのある分析になったのではとの指摘もありました。この点に関しては今後の研鑽に期待したいと思います。

国際春季フォーラムについても第9回国際春季フォーラムから優秀発表賞の審査が行われています。5月開催の第12回国際春季フォーラムの審査結果は7月中旬に学会ウェブサイト上で公表される予定です。

優秀発表賞に関する規定の改定

「大会・国際春季フォーラム優秀発表賞に関する規定」の第2条は下記のように変更され、2019年度から適用されます。この変更により、実質的には全会員が審査対象者になることが可能です（連名発表の場合は、会員を1名以上含むこと）。また、大会・国際春季フォーラムでの発表年度の前年度末の時点で修士号未取得か修士号取得後10年未満の方は、「優秀発表賞」に加えて「佳作」の審査対象ともなり、若手研究者の優遇措置も残されています（連名発表の場合は発表者全員が当該条件を満たすこと）。審査対象者は、発表する年度の前年度末（3月31日）には会員になっている必要があることにご注意ください。

詳細につきましては、ウェブサイトをご覧ください。

「大会・国際春季フォーラム優秀発表賞に関する規定」

第2条 大会・国際春季フォーラム開催年度の前年度末（3月31日）の時点で会員であり、優秀発表賞の審査を希望する者による研究発表（連名発表の場合は、会員を1名以上含むこととする）。なお、上記の会員資格に加え、同前年度末の時点で修士号未取得か修士号取得後10年未満の者による発表（連名発表の場合は発表者全員が当該条件を満たす場合）については、「優秀発表賞」に加えて「佳作」の審査対象ともなる。

（Student）Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第37回大会では、11月9日（土）の午前9時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイト「秋季大会ワークショップ」欄（<http://elsj.jp/workshop/>）掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、2019年3月31日（日）24時まで

に必着にて、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙（Excelファイル）を送信してください。

被災された方の会費免除のお知らせ

昨年発生しました大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号及び北海道胆振東部地震により被害を受けた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

昨年10月に郵送でご案内しましたように、2018年8月以降に国内で発生した自然災害により被害を受けた会員の方につきまして、その災害が起こった年度、またはその翌年度の会費を免除することになりました。学会で特に災害は指定せず、会員ご本人の申請によって事務局で会費免除の手続きを行います。

また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、当該年度に入会される方についても、該当される方は会費を免除いたします。

詳細につきましては、学会ウェブサイトの「各種手続き・お問い合わせ」をご覧ください。

免除を希望される方は、上記サイトにあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。

*申請は随時受け付けます。

*申請時においてその年度の会費が納入済みの場合は、次年度の会費に充当させていただきます。

*既に申請時の年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

ご不明な点は事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）までお問い合わせください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所

定の申請書を提出し、終身会員会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、*EL*、*JELS*、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がいらっしゃることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から11年以上の会費を納めている場合には終身会員会費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページにある「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会長選挙と理事選挙

昨年度会長選挙制度の変更と副会長の設置が理事会で承認され、会長の任期は1期2年間となりました。昨年、10月に会長選挙が行われ、廣瀬幸生氏（筑波大学）が次期会長に選出されました。改定された会長選挙制度により、2019年度の秋に会長選挙が行われ、選出された会長候補者は2020年度に副会長を務めた後、2021年度より2年間会長を務める予定です。改定された会長選挙制度につきましては昨年8月発行のニューズレター『え〜ごがくNo. 69』をご覧ください。

また、会長選挙と併せて、2019年度の秋に理事選挙も規定通りに行われます。

◇ 新たな「助成金」の創設

前号の『え〜ごがく』でもお伝えしましたように2つの助成金が創設され、来年度から適用されます。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

○「学生会員発表助成金」

秋季大会および国際春季フォーラムで、「学生会員」の発表に対し、1件につき1万円を支給する。（本助成金創設によるあらたな事業）

○「市河三喜研究助成金」

「日本英語学会賞（著書）」の受賞者に授与する副賞（5万円）とする。（これまでは、3万円を学会費から支出）

◇ 会計

2018年11月23日に開催されました理事会と評議員会において、日本英語学会2018年度収支中間報告が承認されました。中間報告書はこのニューズレターの7ページから8ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動（含、会長選挙結果報告）

会長選挙結果

2018年度の会長選挙が10月12日告示、10月26日締め切りで実施されました。11月3日に慶應義塾大学で選挙管理委員である水口志乃扶評議員と井上逸兵評議員の立ち会いのもと開票が行われました。その結果、廣瀬幸生氏（筑波大学）が次期会長に選出され、11月23日に行われた理事会で承認されました。任期は2019年4月1日から2021年3月31日までです。

なお、規定により現伊藤たかね会長が2019年4月1日から副会長を務めます。任期は1年間です。

大会運営委員長（退任）

鈴木亨氏（山形大学）が2018年12月14日付けで退任されました。1年間、大会運営委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

大会運営委員長（新任）

松岡幹就氏（山梨大学）が2018年12月15日付けで就任されました。任期は1年間です。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1277名（2月18日現在）です。内訳は、学生会員38名、通常会員1076名、維持会員108名、海外会員10名、終身会員29名（顧問8名を含む）、賛助会員16団体となっております。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第35巻1号（2018年秋号）の刊行について

EL 第35巻1号（秋号）が刊行されました。特

別企画招聘論文 (Invited Article) 2 編、Article 3 編、Brief Article 1 編、Review 3 編が掲載されています。

◇ **English Linguistics** 第35巻 2 号 (2019年春号) の刊行予定について

EL 第35巻 2 号 (春号) は2019年 3 月に刊行される予定です。特別企画招聘論文 (Invited Article) 2 編、Article 1 編、Brief Article 1 編、Review 4 編が掲載される予定です。

◇ **English Linguistics** 第36巻 1 号 (2019年秋号) の応募論文について

2018年 9 月20日締め切りで投稿された一般論文の総数は 8 編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 4 編 (Phonetics/Phonology 1, Syntax 1, Syntax/Semantics 1, Pragmatics 1)、Brief Article 2 編 (Syntax 2)、Notes & Discussion 2 編 (Syntax 1, Semantics 1) でした。また、第35巻 2 号に投稿されて「4 ヶ月書き直し」と判定され、第36巻 1 号に再投稿された論文の総数は 1 編で、Brief Article 1 編 (Syntax 1) でした。

以下の表は、逡巡によるReview 6 編と前号より「4 ヶ月書き直し」として再投稿された論文 1 編も含めた、第36巻 1 号の審査状況です (2019年 2 月16日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	4	2	2	0	0
BA	2	0	1	0	1
N&D	2	0	2	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	6	4	0	2	0
4ヶ月書き直し					
AR	0	0	0	0	0
BA	1	1	0	0	0
合計	15	7	5	2	1

◇ **English Linguistics** 第36巻 2 号 (2020年春号) への投稿について

2020年 3 月発行予定のEL 第36巻 2 号の応募締め切りは、2019年 4 月 1 日 (月) 24 時 (必着) です。応募される方は、学会ウェブサイトに記載され

ている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ **2018年度 EL 論文賞について**

EL 論文賞について、2018年度は2017年 9 月20日締め切りのEL 第35巻 1 号 (2018年 9 月刊行済み) と2018年 4 月 1 日締め切りのEL 第35巻 2 号に投稿され、すでに採用となったAR 4 編、BA 2 編合わせて 6 編について、先ず、分野別一次審査を行いました。審査対象となった論文の分野はSyntax 4 編、Lexical Semantics 1 編、Syntax/Semantics 1 編です。一次審査結果を踏まえ、EL 論文賞候補論文を 3 編に絞り込み、現在「最終選考委員会」で、最終選考中です。最終選考で決定された2018年度EL 論文賞は、2019年 3 月中に受賞者にお知らせします。受賞論文の執筆者は、EL 投稿時の年齢 (あるいは研究歴) に即して、2019年度の日本英語学会賞 (論文) と日本英語学会新人賞への応募の有資格者となります。

◇ **preprintの公開について**

EL への投稿原稿 (preprint) を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ **大会運営委員会の構成**

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 松岡幹就氏

(副委員長) 木村宣美氏

(委員) 米山聖子氏 (国際春季フォーラム実行委員長)、五十嵐海理氏 (国際春季フォーラム副実行委員長)、窪田悠介氏、中村太一氏、成田広樹氏、遠藤智子氏、柚原一郎氏 [以上留任] 眞田敬介氏、漆原朗子氏、高梨博子氏、西山淳子氏、藤川勝也氏、前田雅子氏 [以上新任]

◇ 第37回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は『え〜ごがく No. 71』でお知らせいたします。

◇ JELS 36について

JELS 36はCD-ROM化して近日中にお届けします。なお、今回のJELS 36より、従来の研究発表とワークショップに加え、シンポジウムも報告を掲載することにしました。ただし、ワークショップと同様に、「論文」ではなく「報告」としての扱いとなります。また、JELS 投稿用の原稿サンプル等を改定し、ウェブサイト (<http://elsj.jp/jels/jels-kitei/>) に掲載しました。投稿の際は、最新の書式をご確認ください。

◇ 第36回大会の報告

第36回大会は、2018年11月24日(土)・25日(日)の両日、横浜国立大学にて開催されました。本大会では、公開特別シンポジウム2件、シンポジウム3件、研究発表40件、ワークショップ2件が行われました。大会2日間で381名の参加者があり、盛会裡に終えることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では23社の展示がありました。大会運営を支えてくださった開催校委員及び開催校協力委員の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

◇ 「親と子の部屋」について

第36回大会では「親と子の部屋」の利用はありませんでしたが、今後も毎年開設する予定です。

◇ Conference Handbookの電子化について

第37回大会よりConference Handbookの電子化を始めます。ただし、第37回は試行期間中として、従来の紙印刷版と電子版の両方を作成し、第38回から電子版に統一する予定です。詳しくは、学会ウェブサイト及びニューズレター等で今後お知らせいたします。

◇ 招聘・懲遷制度について

大会運営委員会では、今後の招聘と懲遷のあり方についての検討を始めました。これは現在の制度が形骸化してきているのではないかという指摘を受けてのものです。新しい方針が決まりましたら、学会ウェブサイト及びニューズレター等でお知らせいたします。

広報委員会より

◇ ELバックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過したELのJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2019年1月末日現在、EL 第31巻1号（2014）まで公開されており、3月上旬には第31巻2号（2014）も公開となります。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

学会賞委員会より

◇ 2018年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は、学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞の3部門で応募・審査を行っています。今年度の選考は、2018年度学会賞委員会（杉岡洋子委員長、水口志乃扶副委員長、西岡宣明編集委員会委員長、金子義明編集委員会副委員長、磯野達也事務局長）のもとに実施されました。2018年4月1日から4月15日の応募期間内に、学会賞（著書）には著書1編、新人賞には2017年度EL論文賞受賞論文1編の応募がありました。学会賞（論文）には応募がありませんでした。

学会賞（著書）については5月下旬から11月上旬まで審査が行われ、新人賞については5月下旬から8月下旬まで審査が行われました。その結果、2018年度学会賞（著書）は、澤田治氏（三重大学准教授）の *Pragmatic Aspects of Scalar Modifiers: The Semantics-Pragmatics Interface* (Oxford University Press, 2018) に、2018年度

新人賞は、大塚知昇氏（九州共立大学講師）の“Radical Free Merger”（*EL* 34:1, 2017）に授与することになりました。選考結果は2018年11月24日（土）に開催された日本英語学会第36回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名は*EL* 36巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

受賞作の概要と評価は以下の通りです。

◇ 学会賞（著書）受賞著書

澤田氏の著書は、スケールを修飾すると分析される語（何よりも、とても、fully、など）の機能について、意味的側面と語用的側面から考察したものです。意味論の観点のみならず語用論の観点にも重点を置き、その相関関係を検討している点でこれまでの研究とは一線を画しており、これまであまり考慮されてこなかったスケール修飾語の「二重使用現象」に関する多岐に渡るデータが提示されている点が高く評価されました。

◇ 新人賞受賞論文

大塚氏の論文は、英語の二重目的語の移動に関する振る舞いについて生成文法の極小プログラムの新しいメカニズムを巧みに使った分析を提示したものです。すぐれた実証性とその斬新な提案による現在の理論への貢献が高く評価され、今後のさらなる理論的発展への可能性が期待されることから、新人賞の授賞に値すると判断されました。

日本英語学会2018年度収支中間報告書

人文社会科学系学協会男女共同参画 推進連絡会(GEAHSS)について

この連絡会は日本学術会議との連携の下に2017年5月に人文社会科学系の学協会が参加する連絡組織として発足し、日本英語学会は、2017年度より正式に加盟しています。GEAHSSへは2019年2月現在で68の学協会が参加しており、2月9日には日本学術会議総合ジェンダー分科会との合同で公開シンポジウム「なぜできない？ジェンダー平等：人文社会科学系学協会男女共同参画の実態と課題」が開かれました。

皆様には昨年11月末に締め切った「第一回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」のためのアンケートに多数の回答をいただき、ありがとうございました。上記の公開シンポジウムで調査の中間報告があり、さらに分析を進めて報告書にまとめられる予定です。

今後の活動等については以下のサイトをご覧ください。

<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss>

言語系学会連合について

日本英語学会は2019年度に運営を担当することになっています。また、言語系学会連合が主催する公開特別シンポジウムも担当することになっており、第37回大会の第1日目に特別公開シンポジウムとして行います。内容は次の通りです。

テーマ：「ことばは現実をどう捉えるかーことばの対照研究のおもしろさー」

日時：2019年11月9日(土) 15:15～18:00

場所：関西学院大学（兵庫県西宮市）

講師と（仮）題目

松本 曜氏（国立国語研究所）「移動事象の言語化：実験調査による英語と日本語との対照」

井上 優氏（麗澤大学）「話し手の気持ちは言語にどう反映されるかー日本語と中国語の場合ー」

岡本順治氏（学習院大学）「ドイツ語の心態詞と日本語の終助詞は何に反応しているのか？共通した説明モデルの提案」

渡邊淳也氏（筑波大学）「フランス語の語彙の抽象性・操作性と日本語の語彙の具象性・指示性」

連合に加盟している学会の活動予定が、英語学会の大会予定も含めて、言語系学会連合ホームページの「加入学会カレンダー」に掲載されていますのでご活用ください。

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2019年2月18日現在の会員総数は1277名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入していただきますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2019年度に学生会員として登録（2018年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2019年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので

ご注意ください。特に年度末の2月、3月に学生会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いします。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。

②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

・申告期間：2019年4月1日～4月25日（必着）

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送してください。

(1)在学する学校の発行する在学証明書

(2)学生証のコピー

(3)進学する学校・課程の合格通知書のコピー

(4)（元）指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご連絡ください。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ EL、JELSへの論文投稿に関するお願い

EL、JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「JELS 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信してください。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メール

アドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記してください。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

◇ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）までお申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

◇ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていた

だきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力ください。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

編集後記

陽射しに柔らかさが増し春の訪れの気配が感じられるようになりました。今年度11月に横浜国立大学で第36回大会が開催され、380余名の参加者をお迎えして無事に終えることができました。第1日目の夕刻に行われた懇親会も140名近くの出席者があり、盛大に行われました。臨時バスの手配や宿泊施設の斡旋準備にもご配慮くださった開催校委員・開催校協力委員の皆様、運営の準備に細かいご配慮をくださった大会運営委員の皆様、そしてご参加くださった会員の皆様に、深く感謝申し上げます。書籍展示にも昨年度よりも多い23社のご出展があり2カ所の展示場所は賑わいをみせていました。空調設備の不調でご出展いただいた皆様にご迷惑をおかけした部分もありましたが、研究の成果や今後の研究の材料となる多くの書籍を実際に手に取ることのできる貴重な場の提供にご協力くださった出版社の皆様に感謝申し上げます。

第12回国際春季フォーラムは、東京広尾の聖心女子大学で開催されます。駅から至近で周囲に多くのお店がある中、高台からとても眺望のいい会場での開催となります。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

さて、現事務局は2年間の任期を終えて、新年度から次期事務局に業務を引き継ぐことになります。ウェブサイトをより充実させて会員登録・会費納入・『え〜ごがく』などの電子配信も行えるようにと考えてまいりましたが、その情報収集のみに終わり実現することはできませんでした。今後の課題は次期事務局にお伝えすることとします。この2年間に至らぬ点多々ありましたが、何とか業務を行うことができましたのはひとえに会員の皆様のご理解によるところが大きいと考えております。ここに深く感謝申し上げます。(T.I.)

2019年2月28日発行

編集・発行 日本英語学会
代表者 伊藤 たかね
発行所 日本英語学会
<http://elsj.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900